

2017年2月11日（土）～12（日）

富士山五合目 雪山登山 (2230m)

～Report by yosimatu～

夜の富士山五合目は、時折強い風が吹き荒れているようでした。そんなときは、佐藤小屋もギシギシと音を立てていましたが、その風も明け方には収まりました。

早く寝に着いた我々は、さすがに5時頃にはシュラフからガサゴソと起き出しました。二日目の予定は、昨日登った登山道をゆっくりと下るだけのことだったので、朝食は団体の皆さんが済ませた後にゆっくりとすることにしました。

下山道では、昨夜のうちに降り積もった新雪を踏むのが楽しみでした。

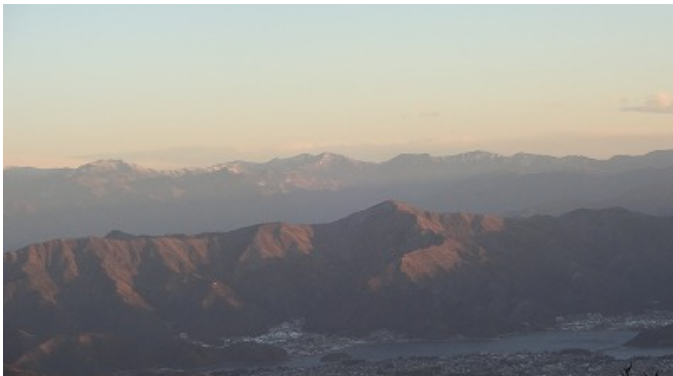
2月12日 日曜日 快晴

シュラフから這い出すと、さすがに部屋の寒さは厳しかった。

窓枠には霜がこびりつき、窓ガラスには氷の結晶が張り付いていた。



五合目からはご来光を仰ぎ見ることはできなかったが、東から徐々に日が差してくる幻想的なひとときを楽しんだ。遙か遠くには、鳳凰山、甲斐駒を臨むことができた。



朝の日差しを受けた山々をバックに記念写真（吉松は出遅れてしまった、残念！）



小屋の玄関は、朝食を終えて出かける準備に忙しい神奈川県山岳連盟の人たちでごった返していた。



7時15分

我々は他の泊まり客が食べ終わった後からゆっくりと朝食をとった。
なんと、朝から身体が温まるうどん鍋だ。
うどんの替え玉オーケー。デザートにはミカンまでついていた。

クマさん会新年恒例で登ることの多い鍋割山の、ご存じ「鍋焼うどん」の話を我々がしていたら、女主人が聞き耳を立てていたらしい。

「うちのうどん鍋は、鍋割とはひと味違う！何しろうどんが違う！ えーい、こうなったら、生卵もつけちゃう！」とばかりに、卵五つを特別サービス。



お世話になった佐藤小屋スタッフの皆様

右端の女性が、ことのほか我々に気を遣って下さった元気な女主人（佐藤江津子さん）

“色々、ありがとうございました”

8時20分下山開始

昨夜のうちに降った雪のため、足下にはパウダースノーが積もっていた。

踏みしめるたびにギシギシと心地よい音ができる。





小野寺さんを先頭に快調に歩を進める。
鳥居を過ぎた辺りのパウダースノーは、降り積もったままのサラサラ状態で残っていて、中島さんが思わず飛び込んでしまった。



30分で早くも五合目焼印所を過ぎた。

昨日は60分以上もかけて登ったところを、半分の時間で下ってしまった。



9時、四合目「大黒小屋」到着
佐藤小屋に入れなかったグループのテントが張ってあった。
ここで小休止をとった。



四合目からは、瑞牆山、金峰山が望めた。



かんじきで下るグループもいたが、締まっている雪道の下りはアイゼンの方が早いようだ。

三合目辺りも順調に通過



昨日昼食をとった二合目で給水タイムを少しだけとって、後は一気に馬返しまで下ることにした。



一合目 鈴原天照大神を横目で見ながらに通過



やがて登山道入り口の鳥居が見えてきた。鳥居そばには「富士山禊所」と刻まれた石碑が建っている。





10時5分

馬返しに到着。昨日四時間ほどかけて登った道を、飛ぶように一時間半ほどで下った。



水分を補給し一息入ってから、中の茶屋まで雪の積もった車道を歩くことにした。雪の無い時期には馬返しまでタクシーが入ってくるのだが、積雪期は中の茶屋までしかタクシーは入ってきてくれない。



大石茶屋跡で山梨ハイヤーに連絡を取って車の迎えを依頼。今日も抜けるような青空で、直接日に当たってれば暫し真冬であることを忘れさせてくれる。



11時15分

中の茶屋に到着した。下り道だったこともあって歩みが軽快で、予定より15分ほど早く着いた。

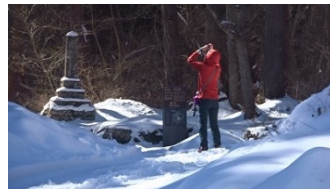


不要となったアイゼン取り外し、ストックも仕舞って迎えのタクシーを待った。近くには登山客の安全確認のためにパトカーが止っていた。



予定より早く茶屋に着きすぎて、少々時間をもて余した。

やはり時間をもてあまして暇そうなおまわりさんと話したり、目につくものを何でも写真に収めたりしてタクシーを待った。「軍人林瑞穂村日露戦役記念会」の碑はその時熊本さんが撮った写真だ。ネットで調べればこの碑に関する情報を得られそうだったが、割愛。

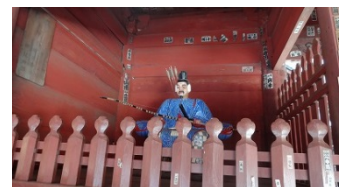


迎えのタクシーで日帰り温泉に直行する予定であったが、その前に富士浅間神社に立ち寄り、楽しく無事に登山ができたことへのお礼をすることにした。



験を担いで大鳥居をくぐり、参道の端を通って本殿へ。

広い境内を持ち、樹齢を重ねた大きな木々に囲まれた美しい神社だ。



三々五々お参りを済ませて、記念の写真に納った。



入浴と昼食のため、「富士山溶岩の湯 泉水」へと向かった。

＊山梨ハイヤーの運転手が行き先を聞き間違えて、「溶岩温泉」に向かってしまう手違いが有り、少し遠回りをしてしまったが、これも愛嬌。

「溶岩の湯 泉水」の方が、我々の目的と趣向にはぴったり。



「富士山溶岩の湯 泉水」

大広間が有り、しかもこの日は人がまばらで、ゆっくりと湯船につかることができた。



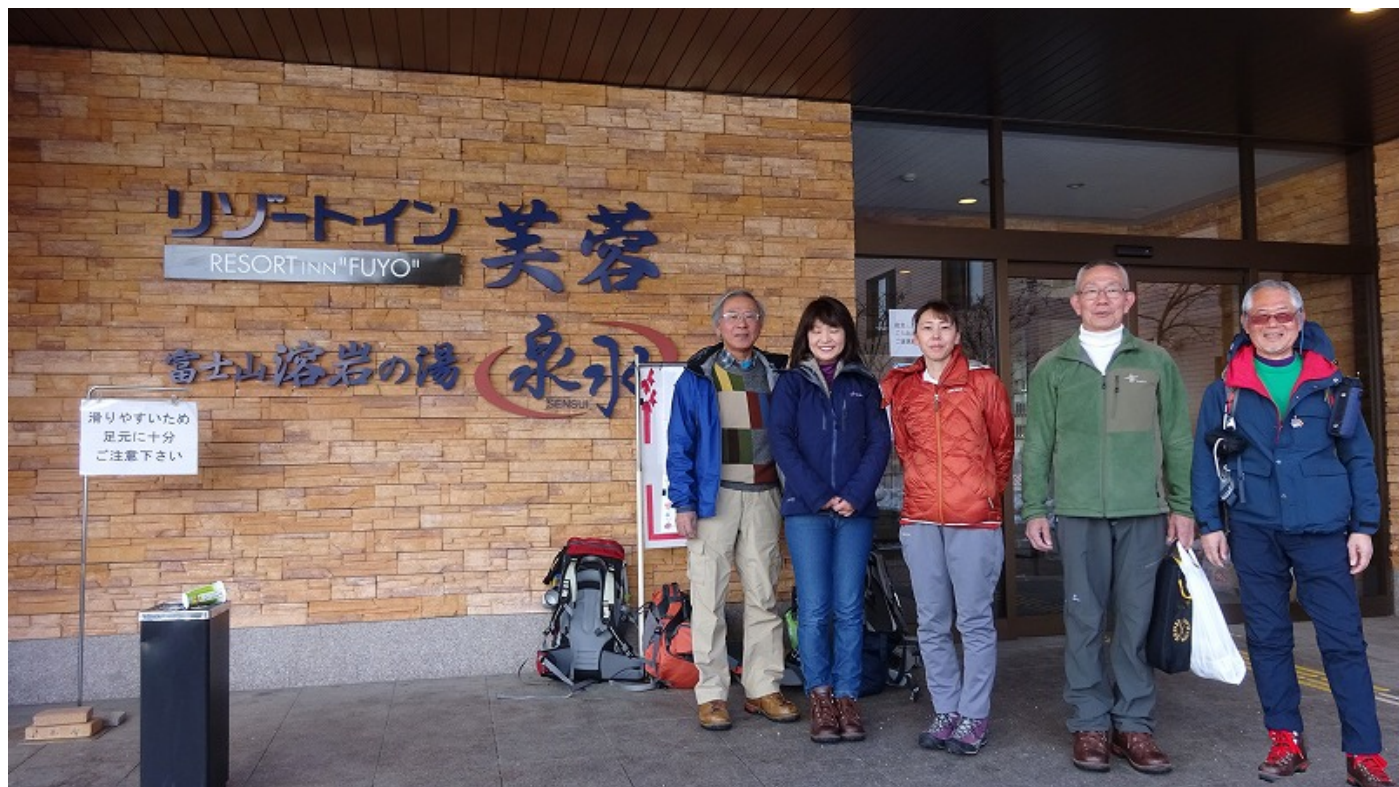
昼食会場は、「泉水」に入っている居酒屋「はなの舞」。我々には打って付けた。

まずは、一汗流した後のいつもの生ビールで乾杯。誰言うとも無く、続いて日本酒。何回か酒のおかわりの注文を入れて、やっと心地がついた。

海鮮丼とそばのセットもうまかった。



お腹もふくれ、すっかりいい気分になって「泉水」を後にすることにした。玄関前で思い出写真を一枚。この辺りから見えた富士山もまた、威風堂々としたものだった。



富士山駅から「成田エクスプレス41号」で帰路についた。

*閑話休題

「溶岩の湯 泉水」に迎えを頼んだ山梨ハイヤーが中々来ずにやきもきした。問い合わせると、またもや「溶岩温泉」に向かっているとのこと。危うく引き返してくれて、なんとか14時27分発の「成田エクスプレス41号」に飛び乗った。

ところが・・・

「成田エクスプレス41号」は全席指定とのこと。飛び乗った所為で、指定はとっていない。しかも車内では座席指定をとることはできないと、つれない車掌の返事。いつ何時指定席の乗客が来るとも知れなくて、おちおちお酒を飲んでいるわけにもいかない。

そこは・・・

いつも冷静な小野寺さんが少しも慌てず、タブレットをやおら取り出し、なにやらパチパチ。中島さんと相談しながら、ネットで指定席をとってくれた。女性陣2人は偉い！男は酒が飲めなかったらどうしようかとしか、考えていなかった。

しかも・・・

この日の熊本さんは変だった。中央線八王子駅を通るというのに、下車して蕎麦や「凜や」に立ち寄ることを提案しても、乗ってこない。何度誘っても反応は鈍い。

そこで・・・

小野寺さんが座席指定作業をしているのを幸いに、どこまで指定を押さえるかの確認段階で最後のだめ押しをした。

「八王子駅で本当に下車なくていいですか？ 今年初めての八王子駅下車ですが、本当にいいですか？」

そしてついに・・・

ついに熊本さんも観念して、八王子駅で途中下車して居酒屋「凜や」に立ち寄ることになった。

そんな訳で、色々経緯はあったが腰を落ち着けていつもの車内での乾杯と相成った。焼酎グビグビ、おつまみポリポリ、うま～～～～い。





件の八王子駅

お酒を飲まない小野寺さんとは、ここでお別れ。

飲んべえ4人は八王子駅で途中下車



いざ！サザンスカイタワー三階へ。



「凜や」では、いきなり冷酒「越乃石翠」



酒肴には、板わさ、長茄子の一本漬け、イカの塩辛、

注文した冷酒は数知れず、

いよいよクマさん会らしくなってきた！！



最後はいつものへぎ蕎麦で締めることになった。

初めての富士山五合目までの雪山でしたが、何よりも天気恵まれたことで、寒さに震え上がることも無く、楽しく無事に登ってきました。

思いがけなく90名を超える宿泊客でしたが、佐藤小屋の配慮で個室に入ることができて、夜もゆったりと休むことができました。感謝！感謝！です。

***最後に、何故熊本さんが八王子「凜や」での打ち上げ飲みを頑なに拒もうとしたのか。**

全ては、雲龍溪谷からの帰宅途中で神谷バーに立ち寄り、電気ブランを飲んだこと（クマさん会 HP 参照）に起因しています。

美味しかったんだそうです、アルコール40度の電気ブランが。熊本さんは、そのうまさがたまらず、グビグビグビと、やったんだそうです。

それから、羽田空港行きの電車に乗ったまではよかったのですが、ふっと気がついたら、千葉ニュータウン中央駅に電車が着いていたそうです。要するに、すっかり熟睡して行ったり来たりしたようなのです。自宅に帰っていたのは真夜中だったそうです。

“再び同じことはやってはいけない”と反省し、八王子「凜や」には寄らない飲まない、と堅く強く決心していたのだそうです。

教訓その1；皆様、とにかく飲み過ぎには気をつけましょう。

教訓その2；飲んべーの皆様、無駄な抵抗はやめましょう。